

## 5 効果（目標）

### 5-1 早期予防保全転換型維持管理による費用縮減（長期目標）

橋梁の維持管理に要する事業費は、本計画により50年間で約4割のコスト縮減が見込まれます。

短期的に15年間集中投資し、予防保全的な維持管理へ転換することで、事後保全的な維持管理に対して、50年間で約4割のコスト縮減と確実な安全確保が見込まれます。

一方で、厳しい財政状況等から短期的な集中投資の確約もありません。

今後は、新技術活用による合理化、協働による延命化を図りながら、インハウスエンジニアを育成することにより、安全確保と更なるコスト縮減・平準化を推進していきます。

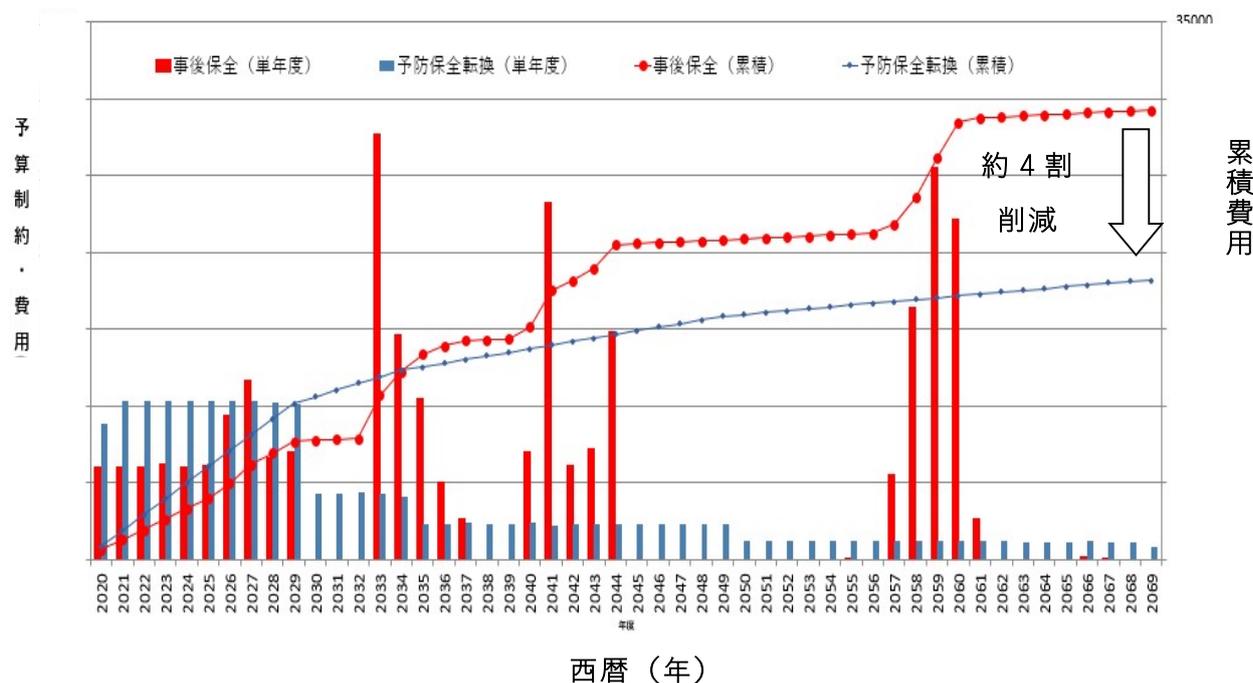


図5-1 計画によるコスト縮減効果

## 5-2 新技術等の活用による費用縮減（短期目標）

定期点検において、12橋に新技術を活用することにより、10万円程度の維持管理費用の縮減が見込まれます。

定期点検において、桁下高が高く、地上・梯子等での点検が困難な橋梁のうち、橋梁点検車に代わり、点検支援技術を活用した点検を実施することで、2027年度までに10万円程度費用縮減することを目標とします。

## 5-3 集約化・撤去による費用縮減（短期目標）

早期措置が必要な1橋を撤去することにより、4百万円程度の維持管理費用の縮減が見込まれます。

2027年度までに廃橋が可能と見込まれる1橋を撤去することで、今後5年間の維持管理に係る修繕等の費用を4百万円程度縮減することを目標とします。